

学校だより



令和4年5月31日
横浜市立二谷小学校
校長 矢島 孝幸

「体験するということ」

副校長 西 かおり

登校後、正門で運営委員さんと「おはようございます！」という元気のよいあいさつを交わし、まっすぐ職員室側に向かってくる子どもたち。手にしているのはじょうろやペットボトルです。自分たちが育てている野菜や花にお水をやっているのです。「何を育てているの？」と尋ねると「ぼくは、ピーマン。ぼくのよりもお友達の方がピーマンが大きくなってきたんだよ。」と教えてくれました。毎日、水やりをしながらどのように形が変化しているのか大きさがどれくらいかななどを観察しているのだと思います。また、水が入ったじょうろを手に「どうしよう。どうしよう。」と言っている場面に遭遇しました。「どうしたの？何か困っているの？」と尋ねると、「ミニトマトに水をあげたけど、水が余っちゃった。この水どうしよう。」という答えが返ってきました。「畑にまくといいよ。」と伝えると「そうか。畑の土にかけてあげると喜ぶよね。」と言って嬉しそうに水を撒いていました。

また、休み時間は、長縄跳びがちよっとしたブームのようで、あちらこちらで子どもたちが長縄跳びをしています。自分たちで決めた目標回数を達成するために友達と声をかけあったり、より多く跳ぶためにどうするとよいか話し合ったりしているようです。高学年になると、長縄跳びを通じて友達とのかわり方を考えたり学んだりするのもかもしれません。

このような子どもたちの姿を見ていると、動画やVRなどの技術が豊かになっても、感じる心や考える力などを豊かにするには、体験することが大事なのだと再認識しました。ただし、体験はすればよいというものでもないようです。ある著名な方の言葉で「子どもたちの考える力をつけるために必要なのは、活動をしているときにかける良質な問いかけです。」という言葉があります。子どもたちは、こちらがどんな言葉をかけるかによって発見をしたり考えたりすることの質が変わるのだそうです。(あまり考えすぎると声をかけそびれそうですが・・・)

さて、今年度は、昨年度よりも子どもたちの活動の幅を広げたり体験活動を増やしたりする予定です。「明日は何年生がどんな活動をするのかな。」「5月末に4年生、7月に5年生が宿泊体験学習。11月に6年生が修学旅行へ行っているのかな。」と、さまざまな体験活動によって子どもたちがどのような力をつけ成長していくのが楽しみです。そして、体験が力にかわるように全職員でかわっていきたいと思います。

登下校時等のマスク着用について

横浜市教育委員会より、マスク着用についての方針が示されました。そこで、本校では、次のように児童に指導します。

- 登下校時は、十分な距離をとった上でマスクを外すようにする。
- 屋内外を問わず運動時にはマスクを外すようにする。

なお、体質等さまざまな理由によってマスクを着用できないお子さんや、マスクを外せない、外したくないお子さんもいらっしゃいます。マスクの有無によって差別やいじめの対象とされることのないように、引き続き指導してまいります。

ご理解くださいますようお願いいたします。